

## 2008 年 6 月の東北地方の天候

### 【 6 月の特徴 】

- 東北日本海側の少雨
- 青森県で竜巻が発生

#### ( 1 ) 2008 年 6 月の概況

この期間、上旬から中旬にかけては梅雨前線の東北地方への影響は小さかった。一時的にオホーツク海高気圧や上空の寒気の影響を受け曇りや雨で低温となる日もあったが、中旬を中心に移動性高気圧におおわれ晴れの日が多かった。また、13 日は上空に寒気を伴った低気圧の影響により、青森県で竜巻が発生した。中旬の終わりには梅雨前線が東北地方まで北上し、平年より遅い梅雨入りとなったが、東北日本海側では下旬も梅雨前線の影響は小さかった。

東北北部・東北南部ともに 19 日ごろ梅雨入りしたと見られ、平年と比べ東北北部で 7 日、東北南部で 9 日遅い梅雨入りとなった。

月平均気温は東北地方で平年並。月降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。月間日照時間は東北地方で多い。

#### ( 2 ) 各旬の天候経過

**上旬:** 期間のはじめは、オホーツク海から千島近海へ南下した高気圧からの冷たく湿った東よりの風の影響により東北太平洋側を中心に曇りや雨となった。その後、5 日から 6 日にかけて本州南岸と日本海をそれぞれ北東に進んだ低気圧の影響で雨となったが、期間の終わりはおおむね晴れた。なお、気温は期間のはじめ低温となったが、後半は高温で経過したため、旬平均気温は平年並だった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

**中旬:** 13 日から 14 日にかけてと 19 日に前線や低気圧の影響により東北北部を中心に雨となったほか、移動性高気圧におおわれ晴れの日が多かった。13 日は上空に寒気を伴った低気圧が東北地方を通過したため各地で雷雨となり、青森県南津軽郡藤崎町では竜巻により住家の一部破損、果樹の倒木、ビニールハウスの倒壊などの被害があった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり多い。

**下旬:** 梅雨前線や低気圧の影響により東北太平洋側では曇りや雨の日が多かったが、東北日本海側では影響は小さく天気が崩れる日は少なかった。23 日から 24 日にかけては低気圧が発達しながら三陸沖を北上した後、三陸沖北部に停滞したため青森県と岩手県の太平洋側沿岸部を中心に大雨となり、八戸や岩手県種市などでは 24 日の日降水量が統計開始以来 6 月としての極値を更新した。この大雨により住家の床下浸水や道路損壊などの被害が発生した。

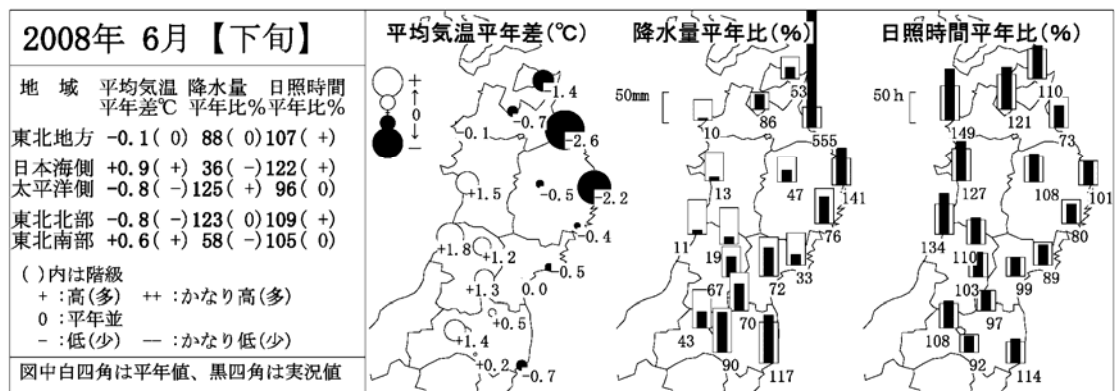
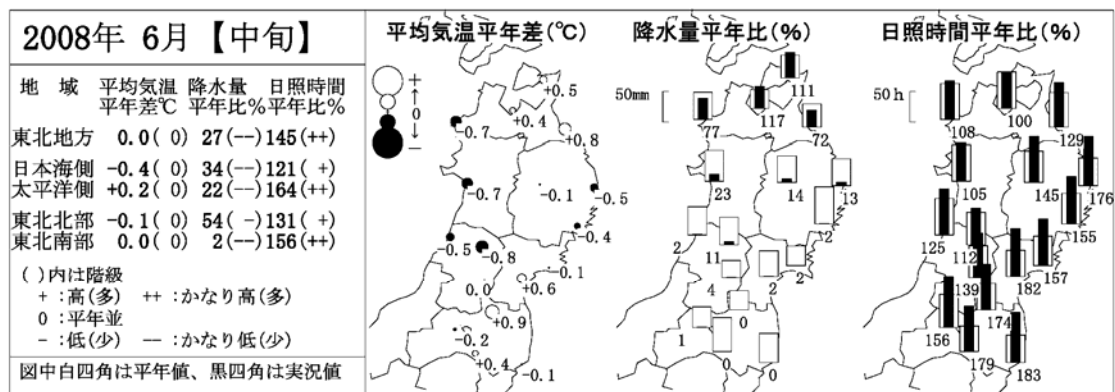
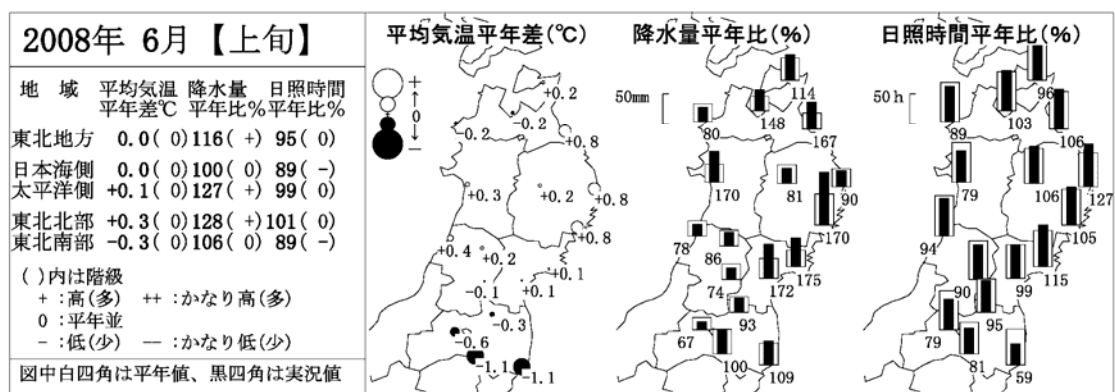
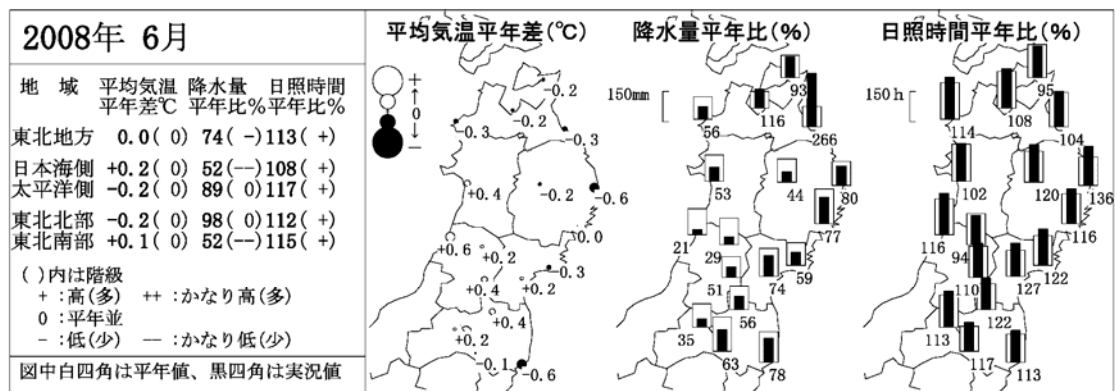
平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で低い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

### (3) 2008年6月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

注1) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

#### (4) 2008 年 6 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差)	階級	降水量(平年比)	階級	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	階級
	(℃) (℃)		(mm) (%)			(h) (%)	
青 森	16.8 ( -0.2)	○	95.0 (116)	+	6	194.8 ( 108)	○
深 浦	16.9 ( -0.3)	○	61.0 ( 56)	—	7	205.1 ( 114)	+
む っ	15.4 ( -0.2)	○	101.5 ( 93)	○	10	154.6 ( 95)	○
八 戸	15.8 ( -0.3)	○	263.5 (266)	+*	10	175.1 ( 104)	○
秋 田	19.2 ( +0.4)	+	68.0 ( 53)	—	7	181.6 ( 102)	○
盛 岡	18.0 ( -0.2)	○	50.0 ( 44)	—*	7	181.4 ( 120)	+
大 船 渡	17.3 ( 0.0)	○	131.5 ( 77)	○	7	171.2 ( 116)	+
宮 古	15.4 ( -0.6)	○	94.0 ( 80)	○	6	190.3 ( 136)	+*
仙 台	18.5 ( +0.2)	○	101.5 ( 74)	—	5	162.8 ( 127)	+
石 巻	17.4 ( -0.3)	○	65.5 ( 59)	—	5	177.9 ( 122)	+
山 形	19.9 ( +0.4)	○	52.5 ( 51)	—*	5	169.1 ( 110)	+
新 庄	18.9 ( +0.2)	○	38.5 ( 29)	—*	6	143.3 ( 94)	○
酒 田	19.9 ( +0.6)	+	27.0 ( 21)	—*	4	203.8 ( 116)	+
福 島	20.3 ( +0.4)	○	66.5 ( 56)	—	6	158.6 ( 122)	+
若 松	20.0 ( +0.2)	○	40.5 ( 35)	—*	5	178.0 ( 113)	+
白 河	18.3 ( -0.1)	○	105.0 ( 63)	—	11	142.8 ( 117)	+
小 名 浜	17.7 ( -0.6)	○	117.0 ( 78)	—	8	156.8 ( 113)	+

(注) 1. 平年値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+: 高い (多い)      ○: 平年並      -: 低い (少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に\*を付加した。この場合には

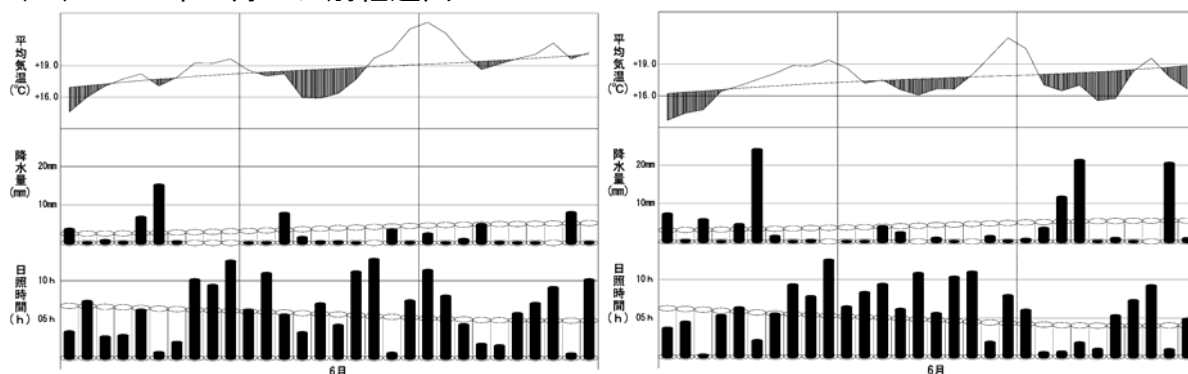
かなり高い (多い)      かなり低い (少ない)

と表現できる。

3. 値の横に ) や ] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準完全値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

#### (5) 2008 年 6 月の日別経過図



東北日本海側の日別経過図

東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温: 実線と点線、降水量・日照時間: 黒い円柱と白抜き円柱)

## (6) 2008 年 6 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	八戸	263.5	266	236.7 (1954)	1937	99.2

月降水量少ない方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	若松	40.5	35	50.0 (1987)	1954	115.7
	酒田	27.0	21	37.4 (1957)	1937	128.1
2	新庄	38.5	29	28.0 (1987)	1958	131.0

月間日照時間多い方からの順位更新

3 位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

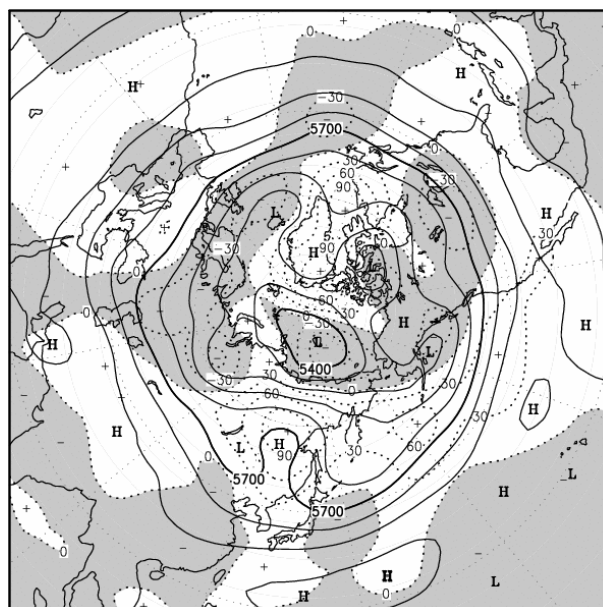
3 位以内はなし

(注) 平年値とは 1971～2000 年の 30 年間の値を平均したものである。

## (7) 2008 年 6 月の循環場の特徴

極東域では、中央シベリアから北太平洋にかけて正偏差となり、特に東シベリアとアリューシャン列島付近で偏差が大きかった。また、日本の北の正偏差が平均的に大きく、地上では高気圧におおわれやすかったため、東北地方への梅雨前線の北上は少なかった。

東シベリアではブロッキング高気圧が明瞭となり、その南の極東域中緯度に寒気が南下する時期があったが、東北地方は弱い正偏差となり寒気の影響は一時的だった。



2008 年 6 月の平均 500hPa 高度

実線は等高線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎  
陰影部は負偏差（寒気に対応）

## (8) 2008 年の梅雨入りの状況（速報値）

■ 平成 20 年の梅雨入り(速報値)					
地方	平成 20 年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	5 月 22 日ごろ	14 日遅い	6 日遅い	5 月 8 日ごろ	5 月 16 日ごろ
奄美	5 月 22 日ごろ	12 日遅い	4 日早い	5 月 10 日ごろ	5 月 26 日ごろ
九州南部	5 月 28 日ごろ	1 日早い	4 日早い	5 月 29 日ごろ	6 月 1 日ごろ
九州北部	6 月 10 日ごろ	5 日遅い	3 日早い	6 月 5 日ごろ	6 月 13 日ごろ
四国	5 月 28 日ごろ	7 日早い	16 日早い	6 月 4 日ごろ	6 月 13 日ごろ
中国	6 月 11 日ごろ	5 日遅い	3 日早い	6 月 6 日ごろ	6 月 14 日ごろ
近畿	6 月 2 日ごろ	4 日早い	12 日早い	6 月 6 日ごろ	6 月 14 日ごろ
東海	6 月 2 日ごろ	6 日早い	12 日早い	6 月 8 日ごろ	6 月 14 日ごろ
関東甲信	6 月 2 日ごろ	6 日早い	20 日早い	6 月 8 日ごろ	6 月 22 日ごろ
北陸	6 月 19 日ごろ	9 日遅い	2 日早い	6 月 10 日ごろ	6 月 21 日ごろ
東北南部	6 月 19 日ごろ	9 日遅い	2 日早い	6 月 10 日ごろ	6 月 21 日ごろ
東北北部	6 月 19 日ごろ	7 日遅い	10 日早い	6 月 12 日ごろ	6 月 29 日ごろ

注)

・梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に 5 日間程度の「移り変わり」の期間があります。ここに掲載した期日は移り変わりの期間の概ね中日を示しています。

・「平年」は、平成 12 年（2000 年）までの過去 30 年の平均（入り・明けを特定しなかった年は除外）の日付です。